

(案)

平成26年3月11日

北九州市議会議長 三原 征彦 様

保健病院委員会 所管事務調査報告書

委員長	白石 一裕	
副委員長	大石 正信	
委員	片山 尹	三原 征彦
	木村 年伸	鷹木研一郎
	三宅まゆみ	渡辺 徹
	松岡裕一郎	藤沢 加代
	吉村 太志	

【調査期間】

平成 25 年 12 月から平成 26 年 2 月まで

【調査事項】

新北九州市立八幡病院について

1. 調査の目的

市立八幡病院は、昭和 5 年に八幡市立診療所として開設され、昭和 18 年には総合病院となり、昭和 38 年に北九州市立八幡病院として生まれ変わった。その後、昭和 53 年に九州で 2 番目の救急救命センターを併設し、平成 15 年には、日本初の小児救急センターを開設するなど、北九州地区の救急医療体制の柱となっている。

現在、築 30 年以上経過し、老朽化や基幹病院としての課題に対応するため、平成 24 年 8 月に建て替えに向けた取組みに着手、平成 24 年 11 月に八幡東区尾倉小学校跡地を建設予定地とした。

平成 25 年 10 月、本委員会において、建設予定地の視察を行ったところ、敷地面積は現在よりふえるものの、アクセスの向上や災害拠点病院としての災害時医療活動の拠点性の強化を図る必要があることを踏まえ、新病院が政策医療を担うことにふさわしい病院とするため、建設予定地と新病院のあり方について調査を行うこととした。

2. 調査の経緯

- ・平成 25 年 10 月 16 日 新八幡病院の検討状況について報告を受け 新病院建設予定地を視察し、八幡病院院長等医療関係者と意見交換を行う。
- ・平成 25 年 12 月 6 日 所管事務の調査を行うことを決定。
- ・平成 26 年 1 月 20 日 委員懇談会を行い、新病院の災害拠点病院としてのあり方について委員間討議を行う。
- ・平成 26 年 2 月 4 日 新八幡病院周辺の公共施設の検討状況について報告を受け、質疑を行う。
- ・平成 26 年 2 月 13 日 新八幡病院周辺の公共施設の活用について報告を受け、質疑を行った後、調査のとりまとめの方向性を確認した。

3. 現在の建設予定地（尾倉小学校跡地）について

- (1) 敷地面積：約1万7,000㎡（現病院は約1万2,000㎡）
- (2) 選定理由
 - ・病院事業への財政負担の軽減、市有財産の有効活用の観点から、一定規模の面積が確保できる市有地とした。
 - ・八幡病院が引き続き求められる救急医療、小児医療、災害医療といった広域性を有する政策医療を担っていくために、現在地の近傍で本市の中心部に位置する「尾倉小学校跡地」が最適であると考えた。

4. 周辺公共施設の状況について

- (1) 周辺の公共施設
 - ・八幡市民会館
 - ・八幡図書館
 - ・西部勤労婦人センター
- (2) 上記公共施設の敷地面積
合わせて約1万6,000㎡
- (3) 市の検討状況

八幡市民会館や八幡図書館のあり方については、新八幡病院の施設配置との関係の中で、公共施設マネジメントの総量抑制の考え方にも留意しつつ、それぞれの建物と機能をどうするかについて、市の関係局で構成する政策調整会議において検討を行っている。

今後、新八幡病院の利便性や機能をより一層充実させることを基本とし、八幡市民会館と八幡図書館の今後の取扱いも含めて、議会・地元関係者の意見なども踏まえながら、今年度内を目途に方向性を出すこととしている。

5. 病院局の考え方

現在の建設予定地に、更に広いスペースが確保できれば、

- (1) 新病院の玄関を、道路に面した位置に配置でき、アクセスが向上する。
- (2) 駐車場を立体から、広い平面駐車場とすることができ、道路に面した場所に配置できる。
- (3) 災害拠点病院として、屋外に大きなスペースを確保することができ、災害医療活動の拠点性を高めることができる。
- (4) 緑地等の空間ができ、アメニティの向上が図れる。

以上の4点から、八幡市民会館や八幡図書館のエリアを活用していきたい、との考え方が示された。

6. 委員の主な意見

<建設予定地について>

- 文化交流センターを残すのであれば、入口が狭いのではないか。
- 現地視察などから、今の予定地は、災害拠点病院としては狭いと感じた。
- 防災減災などを考えた病院づくりが必要だと思うが、災害が起きたときには、スペースが不十分ではないか。
- 予定地に建設するとなると、周辺の公共施設を将来どうするのか、という投げかけが出てくるのではないか。
- 地域から信頼され、患者が、来てよかったと思える病院、そして、医師が活躍できる病院にするため、患者と一番接する医師の意見をしっかりと受けとめて新病院を整備するべきである。

<病院局の考え方について>

- 病院局が八幡市民会館、八幡図書館の場所の必要性を具体的に説明すべきである。
- 関係局間の協議の中で、病院局としてしっかりと意見を言い、理想の病院を目指して、病院局としての立場を貫くべきである。
- 政策調整会議では合意点を見出すため、お互いに主張をし、結論を練り上げるべきである。

<周辺の公共施設について>

- 八幡東区民の声、周辺の公共施設の保存を求める声にも耳を傾け、十分に議論し、総合的に判断するべきである。
- この調査は、新病院が、小児救急医療や災害医療を標ぼうしている病院として、それらにふさわしい病院にするために行っているのであり、現実には、図書館、市民会館は広く利用されている。さまざまな意見の中で、関係機関と調整を図り、立派な病院を建てて、災害・救急医療に備えてほしい。

7. 調査のまとめ

新北九州市立八幡病院についての提言

北九州市立八幡病院は、旧五市時代から市民の健康と暮らしを守り、近年では、北九州地区の小児、救急、災害医療体制の柱として、なくてはならない存在である。

病院を訪れるのは、病気を患う人だけではない。小さな子供が患者であれば、親や、小さな兄弟姉妹も付き添うこととなる。すべての市民にとって、病院は、安全、安心で信頼できる場所でなければならない。

一方、医療従事者に対しては、機能的で働きやすく、笑顔で患者に接することができる環境を整備することが、何より重要である。

北九州市西部地区の医療体制のあり方に関する検討会において、当病院は、不測の事態に備え、地域の災害医療機能を維持するための整備が必要、とある。市は、市民生活の原点ともいえる救急医療の礎となる安全安心な基幹病院の構築に向け、新八幡病院を災害拠点病院として、患者の受入れ及び医療救護活動が効率的・効果的に行えるような災害医療体制の整備を行わなければならない。また、関係部局とも十分に協議のうえ、必要な環境を整えるべきである。

以上のことから、本委員会は、八幡病院の建て替えにあたり、次のとおり提言する。

1. 災害拠点病院としてより一層の機能強化や利用者の利便性向上を図るため、更に広いスペースを確保すること。
2. 広いスペースを確保するため、建設予定地周辺の市有地について、必要な範囲で、新病院の医療エリアとすること。